



# いとを撚る

隅田公園内の多機能化や道路開通により複雑に絡まる道、時代とともに分断された隅田川周辺。様々な糸を有するこの空間は、交り絡まり、時に切れてしまふ。このばらばらになった糸を、橋を中心に結びなおす。提案する橋から複数の糸として派生するネットワークを繋ぐことで、やがて一つの強く結ばれた糸は多機能として役割を果たす。

橋は区つなぎあわせる、いとを撚る。

## 第一話 絡まった糸

概要	過去	現在	未来					
<p>東京都墨田区、台東区</p>	<p>1931-隅田公園開闢</p>	<p>1950-1975: 分断された隅田公園</p>	<p>1975-1980: リバーサイドパーク復活の兆し</p>					
<p>関東大震災後に行われた帝都復興事業により整備された隅田公園は、日本初のリバーサイドパークとして設計された。当時としては多様な機能を有する近代的な公園であった。しかしながら、整備後から90年以上という時間が経つなかで、周囲の都市環境および河川は変化して行き、それと共に公園の果たした役割も大きく変化していった。</p>	<p>1931-隅田公園開闢</p> <p>関東大震災の帝都復興事業として、日本初のリバーサイドパークが整備された。帝都復興の建物の延焼防止を目的とした役割を担った。防災面以外でもスポーツ施設を組み込むことで当時としては近代的な公園設計であった。リバーサイドパークに類似した水辺の厚みや公園の連続性の確保を目的した。</p>	<p>1950-1975: 分断された隅田公園</p> <p>かみそり堤防の建設、首都高速6号線の開通により、隅田公園の一体的な魅力であるリバーサイドという場所性が失われてしまった。隅田公園の変容と呼ばれ、開園当初の設計思想は失われてしまった。</p>	<p>1975-1980: リバーサイドパーク復活の兆し</p> <p>リバーサイドパークの復活を目指し、1975年台東区/墨田区へ移築、77年の緑地法施行をきっかけとして両区は緑地性をキーワードに協力し合うようになった。その成果として、隅田川沿いの歩行者専用橋の整備とデッキエリアが建設された。</p>					
<p>関東大震災</p>	<p>隅田公園開闢</p>	<p>かみそり堤防の建設</p>	<p>首都高速6号線の開通</p>	<p>姉妹区結核</p>	<p>桜橋開通</p>	<p>すみだリバーウォーク開通</p>	<p>東京ミズマチ設置</p>	<p>震災復興橋開通</p>

## 第二話 解く

特色	コンセプト「撚る」	姉妹都市	トリプルネットワーク
<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜 隅田公園は約1000本の桜の木が植えられている。桜は約3パーセントで植えられているため、誰でも見ることが出来る。</li> <li>・花火 江戸時代から代々幕府御用御用が打ち上げた「隅田川開きの花火」を起源とする日本最古の花火大会がこの場所。隅田公園周辺で行われている。</li> <li>・かみそり堤防 1957年に建設されたかみそり堤防。今もなお、1mのコンクリートの壁は両岸に立ち並んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路 首都高速6号線と都道461号線が川と公園の間を通過している。都道461号線の開通とともに交通は利便化され、交通量は増加した。</li> <li>・水上バス 隅田川の水辺には1885年まで遡る。隅田川に架かる様々な橋を架かる水上バスは現在も存在している。</li> <li>・震災復興橋梁 美観を重視する箇所には様々なアーチ橋が配置されており、存在する震災復興橋梁の多くがアーチ橋となっている。</li> </ul>	<p>かつて目指していた水辺の厚みや公園の連続性を継承し、さまざまなこと、ものを運ぶ橋を架けます。</p>	<p>提案する震災復興橋は桜橋とすみだリバーウォークと共に台東区と墨田区を結ぶ歩行者専用橋です。その3つの橋によって台東区と墨田区を結ぶトリプルネットワークを形成します。</p>
<p>公園と公園を撚る</p>	<p>台東区</p> <p>墨田区</p> <p>姉妹都市</p> <p>施工費、維持管理費は折半します。</p>	<p>震災復興橋は浅草寺二天門から直接川に向かいます。門から橋を、橋から門を見ることが出来ます。</p>	

## 第三話 撚る

概要	桜のアーチ	高欄・床版	ライトアップ
<p>サイズは1/10、総延長65mの複アーチ橋です。震災復興橋との視覚的を持たせるためにアーチ橋を採用しました。勾配は約3パーセントで抑えているため、誰でも見ることが出来ます。</p>	<p>上部アーチを桜色で装飾しました。上部アーチを装飾することによって、桜の花に覆われている雰囲気を出します。</p>	<p>ガラス製の高欄を設けます。上層にいても川を近くに見ることが出来ます。</p>	<p>夜は四季を表すライトアップが施され、年中四季を感じる事が出来ます。</p>
<p>遊歩道</p> <p>震災復興橋は牛橋神社が終点です。みずまろ方面に進歩道を引き込み公園内の回遊性を向上させます。</p>	<p>浅草の軸</p> <p>浅草寺二天門から「東参道」二天門通り」歩行歩道に変わります。</p>	<p>高潮対策</p> <p>高潮時には切り欠いた堤防に可動式堤防を設け架橋を架けます。崩壊の怪と、アルミニウム製の止水板から構成されているため、短期間で設置出来ます。</p>	<p>影響効果</p>

## 第四話 未来の糸

橋によって一体となった隅田川周辺は、あるべき姿を取り戻し活性化していく。かみそり堤防を切り欠いた事で川がみえるようになり、景観は明るくなる。それにより隅田公園では出店が始め、地域のコミュニティや橋を中心にネットワークを形成されていった。複雑に絡まる糸は解けていき、ばらばらだった糸は寄り寄り、新たに強く結ばれていく。

- ギャラリーの展示
  - 展示する内容
    - ・近隣の小学校の作品
    - ・隅田公園、隅田川の歴史
    - ・防災について
  - 展示物を通して学び、地域コミュニティを形成します。
- ガラス床の設置
  - 足元の半径1.5mのガラス床に広がる水面は、ここでも味わえない演出です。
- 展望台の設置
  - 上部層の頂上に展望台を設けます。桜の花火、スカイツリーを見る事が出来ます。
- 川の駅の設定
  - 水上バスの乗り場を橋の上に移すことができます。乗り場まで階段を取ることで観水性を高めます。